

# 和水町立病院が担う 役割について

平成30年3月 国民健康保険 和水町立病院

# 1 現状と課題

## 【和 water 町立病院 病院理念】

### ●基本理念

「医療を通じて住民が安心して生活できる社会作りに貢献します」

### ●基本方針

- 一、患者さんの意思を尊重し、最善の医療を提供します。
- 一、職員の輪を尊び、チーム医療を推進します。
- 一、新しい知識を習得し、自己研鑽に努めます。

# 1 現状と課題

## 【和水町立病院の現状】

開設者 : 和水町  
診療科目 : 内科、外科、整形外科、小児科、脳神経外科、放射線科、リハビリテーション科 7診療科  
許可病床数 : 91床 [一般49床、療養42床]  
職員数 : 95人 (非常勤医師を除く。)

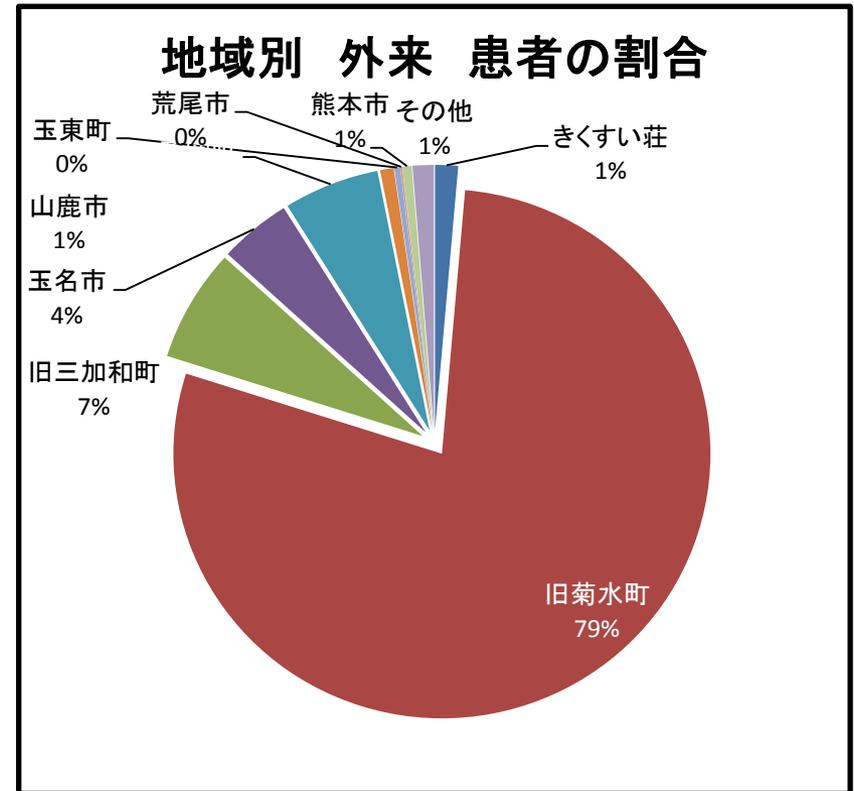
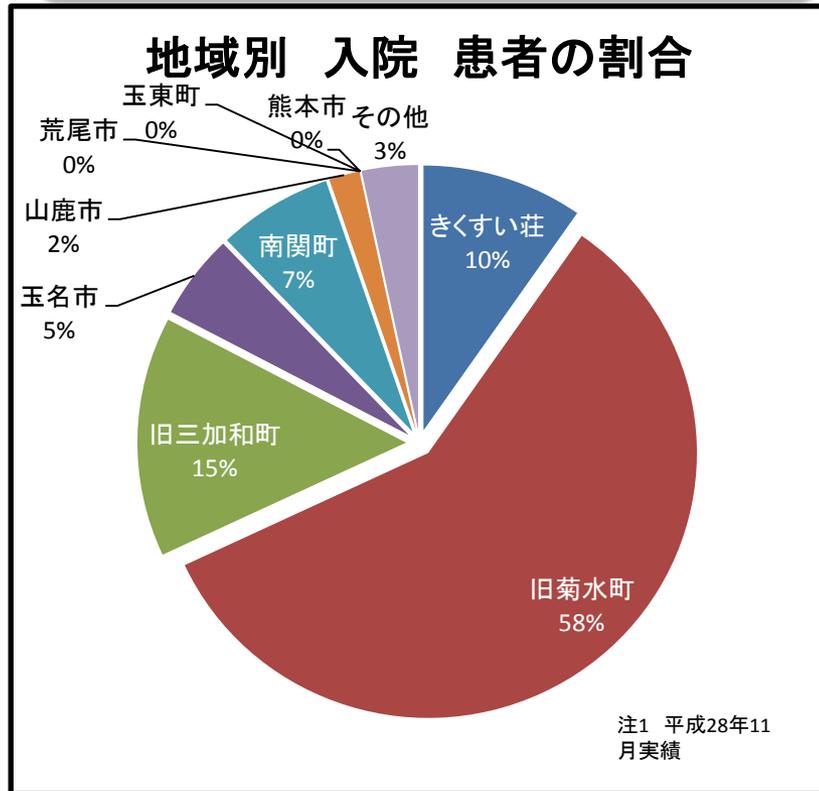
雇用区分	医師	看護師	介護士	医療技術員	事務職	ケアマネ	労務員	合計
正職員	4人	36人	6人	12人	9人	3人	0人	70人
非常勤	14人	7人	0人	3人	7人	0人	8人	39人
合計	18人	43人	6人	15人	16人	3人	8人	109人

施設基準等 : 一般病棟10対1入院基本料、療養病棟入院基本料1、地域包括ケア病棟入院医療管理料2、救急告示病院

平均在院日数 : 21日

# 1 現状と課題

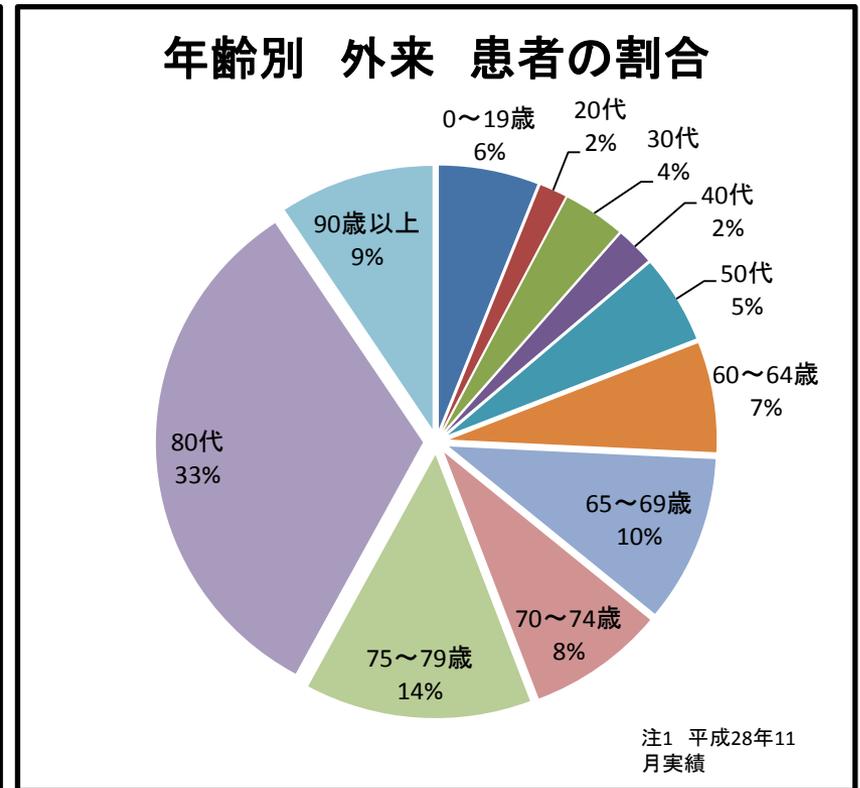
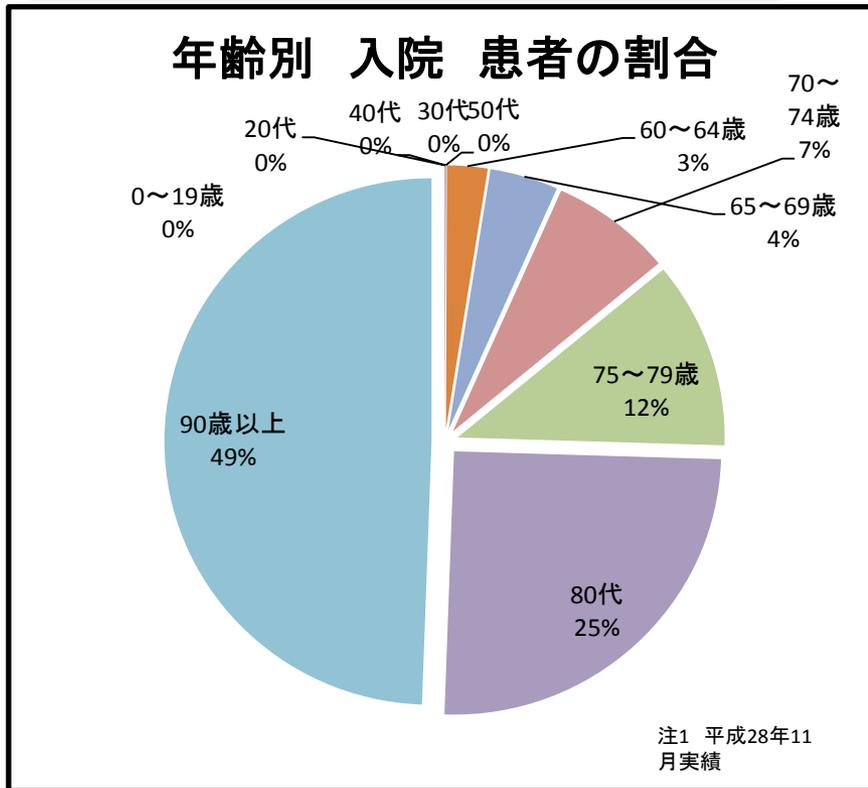
## 【和水町立病院の現状】



- ・入院患者は、83%が町内の患者（うち58%は菊水地区の患者）
- ・外来患者は、87%が町内の患者（うち79%は菊水地区の患者）

# 1 現状と課題

## 【和木町立病院の現状】



- ・入院患者は、97%が65歳以上の患者（うち49%は90歳以上）
- ・外来患者は、74%が65歳以上の患者

# 1 現状と課題

## 【和 water 町立病院の現状】

①	和 water 町、特に旧菊 water 地区の高齢者を center とした住民の診療を行っている。
②	病院の機能としては、回復期および慢性期の患者対応を行っている。
③	軽症から中等症の救急患者対応を行っている。
④	訪問診療、訪問看護、居宅介護支援、健診を行っている。
⑤	人口の減少とともに、外来患者、入院患者とも減少している。
⑥	病棟は昭和60年に改築、外来棟は平成11年に改築しており、老朽化が進んでいる。
⑦	患者の減少とともに、経常収支も悪化している。

# 1 現状と課題

## 【和水町立病院の課題】

- |   |  |
|---|--|
| ① | 今後も人口は減少する予想であり、患者数も減少すると思われる、病院の機能も縮小が必要となるが、どのような機能今後保っていくべきか検討が必要である。           |
| ② | 医師、看護師、薬剤師などの人員の確保が困難になっている。   |
| ③ | 職員の確保ができるとしても、正職員を増やすと更に経営の悪化を引き起こす恐れがあり、慎重に雇用する必要がある。                             |
| ④ | 施設の老朽化とともに修繕費が増加して経営を圧迫している。   |
| ⑤ | 町経営の特別養護老人ホームと廊下を介して繋がっているが、特養も老朽化が著しく建て替えなどの必要が出てきている。特養の将来像と合わせて病院の将来像を考える必要がある。 |

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

1. 地域における病院の役割を明確にし地域包括ケアシステムを充実させる。
  - (1) 回復期患者を受け入れるための地域包括ケア病床を拡充する。
  - (2) 行政、介護福祉施設と協力し、在宅医療を推し進める。
  - (3) 訪問診療、訪問看護を増やしていく。
  - (4) 在宅医療を行うことにより当院の入院患者数も減少し、ベッド数削減も必要になってくると思われるが、公立玉名中央病院と医師会病院の完全統合後に発生すると思われる回復期および慢性期のベッド不足の状況を確認して、当院のベッド数を調整する。
  - (5) 糖尿病教室などの住民啓発事業を充実する。
  - (6) 住民健診にて疾病の早期発見に努める。

## 2 今後の方針

### 【地域において今後担うべき役割】

#### 2. 経営改善を図る。

- (1) 人件費の抑制を図る。
- (2) 職員に節約の意識を持たせ、不要な消耗品の使用を抑制する。
- (3) 訪問診療、訪問看護を増やすことによって増収を図る。

#### 3. 医師の確保。

- (1) 引き続き、熊本大学付属病院の医局との繋がりを保つ。
- (2) 公立玉名中央病院との連携を保ち、協力をお願いする。

#### 4. 隣接する特別養護老人ホームの方針が当院の将来像に大きく影響するので、行政とともに早い時期に検討し方針を決定する。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【① 4 機能ごとの病床のあり方 その1】

単位：床

病床機能	2017年(平成29年)	2023年(平成35年)	2025年(平成37年)
高度急性期			
急性期			
回復期	49床	49床	49床
慢性期	42床	30床	30床
その他			
合計	91床	79床	79床

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【 ① 4 機能ごとの病床のあり方 その2 】

#### (1) 当院の果たすべき役割

- ◆ 現在も一定数の入院を必要とする中等症の患者さんがおり、回復期の患者を含めると現在の49床の一般病床は確保したい。
- ◆ 時期によって入院患者数は異なるが、冬場は肺炎などの急性疾患が増え、急性期病院に入院できなかった患者も受け入れを行うためベッドが足りない事もある。また認知症で不穏の強い患者も多く、同室に他の患者を入院させられない事情もあり、少し余裕のあるベッド数を確保したい。
- ◆ 療養病床は現在42ベッドであるが、介護型療養病床の廃止と在宅医療の促進で利用率は50%を切っている。
- ◆ 公立玉名中央病院と玉名地域保健医療センターが統合し新病院が出来上がった時に生じるとと思われる療養病床の不足に対応したいと考えており、それまでは現在のベッド数を維持したい。最終的には30ベッド位が必要数になると考えている。

### 3 具体的な計画

#### (1) 今後提供する医療機能に関する事項

##### 【②診療科の見直し】

	現時点 (2018年3月時点)	2025年	理由・方策
維持	内科、外科、整形外科、 小児科、脳神経外科、 放射科、リハビリテーション科	現在の診療科を維持	地域の一次医療としての 役割を保つため
新設			
廃止			
変更・統合			

### 3 具体的な計画 (2) 数値目標

	現時点(2018年3月時点)	2025年
①病床稼働率	59.1%	70%
②紹介率	9.0%	20%
③逆紹介率	22.0%	30%

### 3 具体的な計画

#### (3) 数値目標の達成に向けた取組みと課題

##### 【取組みと課題】

- 医療福祉連携室を通じて、近隣急性期病院と連携を行っており、更に拡充して紹介率・逆紹介率の増加に繋げたい。
- 近隣開業医や介護福祉施設との連携も強力に行い、ベッド利用率を上げるとともに、在宅医療も進めていく。
- 患者数に応じてベッド数の見直しを行う。